

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000366		
法人名	株式会社 道央ケアセンター		
事業所名	グループホームつつじⅡ (第1ユニット)		
所在地	北海道小樽市朝里川温泉2丁目694番地4号		
自己評価作成日	平成 27年 1月 15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境に位置しており、暖かい季節には、周りの山々の景色や草花を眺めながら散歩を楽しむ事が出来ます。また、フロアの窓からは、野生のリスや、鹿、野鳥なども遊びに来てくれる事が出来ます。暖かい季節には、中庭でお茶を楽しんだり、花壇や家庭菜園があるので、利用者の方々と一緒に花壇への水やりや、野菜を育て、収穫し食事をしています。ゆっくりとした家庭的な雰囲気の中で、利用者様一人ひとりが楽しく安心した生活が送れるように努め、地域の方々と交流を深めながら、地域に密着したグループホーム作りを目指し取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&JigyosyoCd=0172000366-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27年 2月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは同一敷地内にある系列のホームとデイサービスセンターと連携を取り、ホーム共通の理念を大切に運営されています。職員は系列ホーム間での移動があり、経験を積み重ねて理念に沿ったサービスを提供しています。災害訓練は合同で実施し、地域の協力を得ています。居間に面したトイレは集合化した造りでプライバシーに配慮されています。各ユニットの入り口は、素通しのガラスの戸で職員の目線内に位置し、利用者の安全につなげています。居間に出窓があり飾り付けや、窓からは周囲の豊かな自然を楽しむことができます。利用者は自立歩行者が多く、地域の小学校行事や町内会行事に参加しています。クリスマス会は子供会とボランティアの協力で実施し、利用者の笑顔が増えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の運営理念とポリシー(方針)を決め、常に目に止まる所に掲示し、それに沿ってサービスを提供しています。また、社内研修に取り入れ、皆で共有し実践につなげている。	理念は系列のホーム共通で玄関をはじめ、居間や職員の居場所に掲示しています。地域との結びつきを取り入れた具体的な言葉になっています。、職員が系列のホーム間で異動しても変わることなく理念に沿ったサービスを提供しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校や施設行事への参加、地域のお祭りや、クリスマス会、雪あかりなどはボランティアの方や子供会の協力を頂き、楽しく交流ができています。	地域の小学校の子供会や保護者と交流があり、運動会や学習発表会などの行事に出席しています。ホームが会場になって雪あかりやクリスマス会にはボランティアの方々の協力を頂き、利用者の楽しみになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヵ月に1回、運営推進会議を開催し、その中で地域の民生委員さんや、ご家族の方々へ日々のホームでの生活をお伝えしたり、認知症の方の理解や支援の方法等を話しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価、外部評価について報告しています。日々の取り組み、改善に向けた取り組み等意見交換を行い、サービス向上に活かしています。	定例化した運営推進会議は報告と話し合いをして、地域の行事の取り組みなど意見交換をしています。利用者も出席しています。家族に終了後議事録を送付しています。	地域との関係は良好ですが、出席者の構成範囲が狭く、関わりのある方々に参加をお願いするなど、広がりを目指します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や窓口にて相談し、アドバイスを受け協力関係を築くように取り組んでいます。	定められた報告のみならず、困難事例について相談したり、アドバイスをいただき協力関係を続けています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、話し合いを行っています。社内研修にも取り入れ、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、職員全員が周知して日々のケアに取り組んでいます。	施錠については、夜間のみとしユニットの戸口は素通しガラスで見通しが良く、日中はしていません。身体拘束防止に関する学びは研修課題とし、職員はマニュアルに添って身体拘束をしないケアに努力をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて繰り返し学ぶ機会を持ち、日々の生活の中で利用者様の様子に変化がないか注意し、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に取り入れて、繰り返し学ぶ機会を作っています。職員全員が理解を深め、知識の向上につながるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス提供前に契約書、重要事項説明書にて説明し、ご家族が不明な点等については、十分話し合える時間を持ち、納得頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会等に意見や要望等を伺うようにしています。面会の少ないご家族へは、電話やお便り等に対応し、意向に沿ったケアが行えるようにしています。	玄関に意見箱を設置していますが利用は見当たりません。面会カードに意見が記載されている場合もあります。家族に法人全体でアンケートを年1度実施して意見を聞いています。面会時には会話を多く持つようにしています。	職員の異動や行事、利用者のホームでの様子が判る「たより」の発行を再開し、家族に情報をお知らせする取り組みに期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を重視し、定期的に会議を開催し意見交換の場を設けています。また、日常の介護の場面での気付き等も都度意見を聞いています。	日中の職員と夜勤の職員とそれぞれ専属に勤務をしています。申し送り時の接点で連携の不足を補う工夫をし、それぞれにミーティングを重視して、意見交換をしています。統括のリーダーを中心に各ユニット責任者が職員と話し合いをし、職員間の連携を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が、能力を發揮できる様に努めています。個々が目標を持ち積極的に資格取得に取り組み、向上心を持って働ける様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は毎月実施し、外部研修へも参加しています。また、資格取得を目指す職員へアドバイスや、模擬問題の配布を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問研修を通じて、同業と交流し、意見交換を行い学んだ事をサービスの質の向上につながる様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やご本人が安心して入所出来るよう、お話しする機会を持ち、見学を進めています。要望や不安な事を聞き、安心して生活できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を聞き入れ、出来るだけ希望に沿った支援が出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人とその都度話し合い、適切な支援が出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除やリネン交換等を職員と一緒にしたり、わからない事を教えて頂きながら、良好な関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会や電話でご本人の様子をお伝えしています。また、ご家族からの要望を聞き安心して過ごせるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力して頂き、快く面会に来て頂けるよう支援に努めています。	以前の友人とのつながりを途切れないように、家族の協力で面会につなげている利用者もいます。電話の利用や外出など、個別の対応を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し、その方に合った関係を築けるよう工夫し支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了をも相談や心配事があれば、いつでもご連絡頂ける様、ご本人、ご家族にお伝えしています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の表情、言葉、行動から思いを把握するよう努めています。意思疎通が難しい場合は、ご家族から情報を得る様にしています。	会話の中から利用者の意向を汲み取るように関わりを丁寧に行っています。意思疎通が困難な方は家族から情報を得たり、行動や表情から把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、ご本人、ご家族から情報を伺い、日々の生活の中で継続出来るよう努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や、心身の状態を職員間で確認し合い、無理のない程度に発揮出来る様に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を聞き、担当者会議などで適切なサービスが提供出来るよう、話し合いをし介護計画を作成しています。	日々の暮らしを記録にとり、介護計画に活かしています。職員は毎月会議をして見直しとケアの方策を確認しています。3カ月ごとに計画の立て直しをしますが、容態の変化には即対応しています。利用者本位に過ごせるように支援しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとに、毎日の様子を個別に記録しています。モニタリングを行い、職員間で話し合った事を介護計画見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関以外の通院、送迎などご家族が同行出来ない場合は、柔軟に対応しています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、消防、地域のボランティアの方々から協力を頂き、豊かな暮らしが出来るよう支援しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの病院を継続するか、施設病院へ移行するかは、ご本人、ご家族の希望にそった受診、往診を支援するよう努めています。	協力病院からの送迎バスで定期的な受診が出来る体制になっています。本人と家族の希望でかかりつけ医を受診している方もおります。歯科医の往診はその都度実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理を行い、変化があった場合は協力病院（内科・整形・精神科・歯科）の看護師に相談し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、安心して治療が出来るように、病院関係者やご家族と連絡を取り合い、情報交換や経過を共有し早期に退院が出来る様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の方針については、サービス開始以前に説明しています。協力医療機関や他の施設と連携し、その状態に合った支援が受けられるように取り組んでいます。	重度化や終末期の対応はホームとしては現段階ではしていません。利用時に家族に口頭で説明をしています。	ホームとしての方針は家族への説明で終わらずに重度化や終末期の対応について指針と同意書の作成に取り組むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修などで、応急手当の方法や初期対応が出来るように学んでいます。これからも、全職員が実践できるよう継続に努めます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で、定期的に日中夜間を想定した避難訓練を行っています。地域の方々とも協力し、安全に避難が出来るよう、話を進めています。	スプリンクラーの設置、IH器具の使用など防火に対する取り組みのほかに、避難訓練は日中と夜間を想定し、近隣施設と合同で消防署と地域の応援を頂き実施しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、話す内容によっては自室にお誘いしたり、相手の目線に合わせるなど心掛けています。	利用者の個性を重んじ、声かけや対応に配慮をしています。個別の対応をして穏やかに生活出来るように支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を伺えるよう、声の掛け方を工夫し話しやすい環境を作るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、行事などへの参加など、ご本人の希望やペースを大切に、時間を変えるなど無理のないように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合った服装や、ヘアスタイルなども希望を伺いながら散髪しおしゃれが出来るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの多い方には、バランスを考慮し盛り付けの工夫などに努めています。また、配膳、片づけなどを一緒に行っています。	献立と食材購入は統一された体制ですが、職員の工夫で利用者の好みに合わせた食事を提供しています。職員は利用者と食卓を囲み、介助が必要な方には支援をしています。利用者は盛り付け、配膳、後片付けなどに協力しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好み、体調に合わせてお粥、刻み、とろみを付け量を調節しています。食事摂取量、水分量は毎日記録しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせて、歯磨きを促し、不十分な時は仕上げ磨きや義歯洗浄の援助を行っています。夕食後は、義歯を預かり消毒しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立されている方はこの状態が維持できるよう経過を見守ります。困難な方は時間をみて声掛け、状況をみながら援助をしています。	一人ひとりの排泄を職員が見守り、プライバシーに配慮し、自立したトイレでの排泄を目指して支援しています。介護度が高く歩行困難な利用者には個別の対応で、オムツの利用を視野に入れた取り組みをしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病院にて下剤を処方して頂き、出来る限り排便の有無を確認して記録し、量を調節しています。また、体操や歩行、マッサージを促しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や気分をみながら、声掛けのタイミングや順番を考え、個人のペースに合わせて入浴を楽しめるよう支援しています。	ゆったりした浴室でりようしゃの体調や気分に合わせて配慮しながら、週2回以上の入浴を楽しめるように支援しています。状況によってはシャワー浴も実施しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて、夜間ゆっくり安眠出来る様に、日中は活動を促し眠気が強い場合は短めに休息をとって頂いています。夜間は定期的に巡視し、安心して眠れるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を事前に確認し、副作用、用法、用量について理解し、服用中の体調の変化の確認に努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事、出来る事を把握し、行って頂いたり、嗜好品の継続や、歌会、ホーム内喫茶、散歩へお誘いし気分転換の支援を行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調をみながら、屋外へ散歩に出かけたり、近隣の小学校や施設での行事にも積極的に参加しています。	行事としての外出は地域との交流で小学校の運動会や学習発表会の場に参加しています。ホームでは紅葉狩りの外出もあります。家族の協力による個別の外出も楽しみになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理をしている方はおりませんが、ご本人の希望があれば、ご家族を相談しながらお預かりしているお小遣いを使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親しい方からの電話の際には、直接お話しして頂いています。また、希望があればこちらから電話をかけています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしたり、一人ひとりの体調を聞きながら、温度調節を行い、快適に過ごせるようにしています。	グループホームとして工夫された造りで、居間は窓が広く、周囲の景観は野生の小動物が見られたり、四季の移り変わりが自然を通して十分満喫できる状況です。室内は壁面の飾りつけなど利用者の書や作品が掲示されています。食堂のテーブルの他にソファがあり、ゆったりとし、トイレにも配慮があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室がありますので、自室でゆったり過ごされたり、フロアでは、気の合う利用者様同士が近くでお話できるような工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご家族と相談しご本人が使い慣れた家具や好みの物を配置し、今まで通り居心地良く生活して頂けるように支援しています。	家族の協力で馴染みの家具や調度品を配置し、その人なりの落ち着いた居室になっています。施錠も自由です。仏壇を持ち込んでいる方もおります。温度や湿度も快適に過ごせるように換気を十分とっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の居室やトイレには一人ひとりがわかるように目印や見出し、名前を付け不安なく自立した生活が送れるように工夫しています。		